

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	fun		
○保護者評価実施期間	R6年 1月 1日		～ R6年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	R6年 1月 1日		～ R6年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	先を見据えて支援の提供。 就労準備型という特色を単位の中で持っている。	就労施設を職員が知る事・保護者様に見学の機会を設けること を行っている。	就労施設だけでなく、共同生活援助等福祉サービスを幅広く 知っていただく機会を更に設けていく。
2	年齢に合わせた各単位でのプログラム作成により、一人ひとりの ニーズ等に応えやすくしている。	年齢別だけでなく、異年齢との交流を様々な活動を通して、経 験できるようにしている。	より柔軟な対応をとるための、職員のスキル向上だけでなく、 様々な活動を企画できる発想する力は、常に向上する意 識を持つ必要がある。
3	おしゃべり会・季節行事を通して、保護者同士の繋がりだけで なく地域を巻き込んだ取り組みを行っている。	アンケートや実際に保護者様に取り組んでほしいことを伺い、 反映できるようにしている。	参加率を高める工夫や満足度の高い企画提案を常に向上心 を持って取り組む。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	安全計画等・各種マニュアルに関する周知不足。	周知機会が少なく、理解を得られることが難しい。 モニタリング時になっていくが、徹底不足もある。	事業所における周知方法の統一と、アンケートの項目等につ いて保護者様に説明を行っていく。
2	活動内容によつてのスペースの確保不足。	部屋中での活動時(特に運動系)、狭いと感ずることがあ る。	既存の部屋を有効利用し、仕切りのドアをとる等改善しなが ら、利用者にとって過ごしやすい環境を整える。
3	事業所の併用をしている利用者に対する、支援の共有。	相談支援を通して情報共有はしているが、直接のやりとりが少 ない。	各事業所と連携・情報共有がとれる関係性を構築し、会議の 場・時間を確保していく。